

FISHING

その1・キス釣り編

7月終りの日曜日、店の忙しい中を抜け出し友人の宮本氏、磯見氏、私の三人で待望の釣り旅行にまだ薄暗い朝のうち、下田へと向った。

1日はキス釣り。三人は早出の疲れも見せず、三人と大きなお弁当を乗せた、たっぷり重いボートを漕いで岸より100m程の浅瀬を今日の漁場に決める。照りつける太陽の下数時間の釣り大会。キスは小型だが、くいは良い。

普段は、真鯛1本の小難しい釣り師達もこんな時が本当は一番楽しそうな顔である。2時を過ぎる頃からキスのくいがビツパリ止った。かかるのはわずかに数cmのメゴチばかり。磯見氏は少々あきかげんにかかったメゴチを泳がしたまま大物狙い。宮本氏が途中、海へびやら、見た事もない真っ白な魚やらを釣り上げた他は今日はいざ立った獲物は上っていない。餌のイソメもそろそろ底が尽き始めている。

まあまあ釣果だが、大会としては甲乙つけ難い。「最後にキスを釣った人を今日の優勝という事にしよう」という事になり皆の顔が突然引き締まった。殆ど真鯛を狙う表情である。来た！今迄小1時間も来なかったキスが私の竿に来た。喜んで上げようとした一瞬にばらしてしまった。私の抗議に、ダメダメちゃんと釣り上げなくちゃと冷たい返事。皆次は自分だと又真剣な表情。30分余り、もうどこにもビクリともしない。遂に餌が1人に1匹ずつになった。「じゃあ、この餌で駄目なら今日は終了だ。」という話になったとたん私の所に又あたりが来た今度は慎重に誰にも告げずにそろそろとリールを巻き上げる。途中かなり強い引きの後、宮本氏が急いでさしたタモにかかったのはでっかいカワハギだった。

タモにおさまった時にはもう針が外れていた。あぶなかった。立派な外道に、私は文句なしの1等賞。獲物を手に写真まで撮って満足しきりその晩は釣り宿でカワハギのお刺身をいただきました。



その2・越後丸編

DARTS

MILK HALL TOURNAMENT

「宮本則夫氏 敗者復活戦 2連覇!!」

8月3日月曜日7時より16人によるハンディトーナメントが行われました。
 優勝・磯見 藩ハンディ601 賞品ラジオカセットデッキ
 準優勝・滝川史子ハンディ551 賞品ビーチセット
 3位・老松春彦ハンディ601
 山本智子ハンディ401

敗者復活戦優勝・宮本則夫ハンディ601 賞品掃除セット
 SHORT GAME・11ダーツ(301)宮本則夫/HIGH OFF・114宮本則夫

★試合終了後の宮本氏のお話を伺いました
 前回の敗者復活戦の賞品が釣り竿セットだったもんで、今回は最初から意識していました。ええ、今回の賞品が僕が前から欲しかった掃除セットなので満足しています。ショートゲームですか？あんなのチョイチョイと投げれば簡単です。もちろん次回も敗者復活戦3連覇、狙ってます。・・・
 大活躍の宮本氏談でした。 次回は、12月の予定です。

COLUMN

落書き帳より

今日、猫を見た。
 それは、朝のわずかな光が集まる一角にいた。
 その目を1本の線にしていた彼は、私の足音に反応して、ゆっくりと目を上げた。
 視線がぶつかった。 2秒
 彼の横を、通り過ぎた。 1秒
 振り向いた。彼の視線の延長は、確実私目をつら抜いていた。
 3秒
 目尻がひきつった。気付かれたらどうか。彼は微動だにしない。私は、微笑する。
 ふっ、とため息をひとつ。 2秒
 振り向いた。後ろに彼の静かな息づかいを感じつつ私は歩き始めた。

或る日の事

東の街道すじの浪人が参入、鎌倉にて八幡宮に参拝たてまつる折りに、小町なる通りありける。馬車や、飛脚などのいとかしましきところを、百歩程上がり、枝村やなる、茶売り屋の角を、左に折れ曲がり曲がりていくに、その後ろ姿なまめかしき女房ありける。面の様あれやこれやと推しはかり、歩み寄りたりなば、女房そのさま、おおいに察したりけるや、早足にて失せにける。浪人も驚てその面を見合わせたに、
 『乳穴』と描かれたる所あり。浪人もはたと手を打ち、ここぞと、はかまの紐を緩めつつ、我先にとばかり駆け込みければ、その所、いと、ありがたき茶店なりけり。
 歌 「乳穴や、奥に入れば入る程こちよき事この上も無し」
 詠み人知らず

梅こぶ茶

『梅こぶ茶』この響きは、なにかが違ふ。そう例えば「ツルマルマッチ」のまろやかさ、「らくがき帳」の閉じた世界のイメージ。どれとも相いいれないが、全ての物と、接点を持つ・・・

時代は今『梅こぶ茶』



2日目、キスのかたきはダイサキかシマアジか？という勢いで朝5時越後丸に乗り込む。店じまいをして夜中の内駆けつけた働き者の老松君が加わり4人の熱い戦いが始まった。昨日は46cmの大イサキが上がったという事。須崎港から全速力で1時間余り、利島に着いた。今日の漁場である。海は静かだ。今日はみななかなか調子が良い。磯見氏がやや出足不調だが後で本領を発揮する事になる。もう何度もお世話になっているこの越後丸の船長さんは、漁師らしからぬシティボーイでなかなかの伊達男である。この船は、元巨人軍監督の川上哲治氏もたびたび利用していて、かなりの大物を釣り上げている。そんなわけでスポーツ誌などでは有名である。この船長、かなり目利きがすくなく、ほんやりしている釣り師の竿先を見て見逃さない。老松君と私はこの船長の真下に位置しており、気がぬけない。正午になり少し早出の眠気が襲ってくるころ老松君の竿に変化が起きた。イサキではないようだ。獲物はかなり走り回っている。しばらくして眼念しように上って来た。「木がつをだ！」ソーダがつをなら葉山沖でも珍しくないが、この辺りでも木がつををはめったにいない。お手柄である。出帆から海釣り誌の取材記者が1名、Nikonのカメラを手乗り込んでいたのだが、早速飛んできてカメラに納めた。木がつをは、群れでいたのだからまだだいるに違いない。今度は、宮本氏の所に見た事もないすごいあたりが来た。竿先から道糸がピンと張り切って沖に向けてぐんぐん走って行くのが分かる。船長は、全員に竿を上げさせ、静かに船を旋回させて船ごとじりじり魚を追いかける。少し糸が緩みかけた次の瞬間、今度は糸は陸に向ってすごいスピードで伸びていく。

宮本氏は遂に体勢を崩し体ごと糸に持って行かれるような格好になった。ダメダメ！ダメダメ！という声。遂に力尽きた糸は切れ、獲物は姿を見せる事は無かった。先程から、真っ青な背中を持った1.5mもあろうかと思われる巨大なシイラが、私達を覗いて来ているかの様にゆったりと海面近くを回遊している。さっきのあの幻の魚はなんだったんだろう。・・・続いて、磯見氏にも大きなあたりが来た。2kg弱のクチグロと1kg強の沖メジナが取材氏のカメラに無事納まった。私はあゝ変らずイサキ1本。老松君もメイベスでイサキを釣っている宮本氏の所に2度目の大きなあたり。今度はすごい勢いでどんと海底に潜っていったまま一瞬の間に糸は切れた。これはたぶん5kg級の大型メジナらしい。2時少し前そろそろ引き上げる時も近くなってきた頃、木がつをの群れが戻って来た。船の中ボツボツとかがつをを掛かり始めた。かがつをは猛スピードで走り回るので、船長は大物が掛かると見ると何人かの竿をじゃまにならぬ様上げさせたり、船を旋回させたりして援護射撃を送っている。宮本氏に3度目の大きなあたり、これはかがつをらしいが船底の方へ走りだしてとてつもない力で釣り師を海へ引きずり込もうとしていた。船長はまたもや船を旋回させる。やっと魚は船底から出て来た。釣り上げる態勢を取り、そろそろと巻き上げる水面に青っほい影。やっぱりかがつをだ！いや、おかしいぞ！何だろう、真鯛か？大きなタモで揚い上げられた時、皆、あっと息を呑んだ。確かに大型の木がつをに違いないけれど、胴体がすっくわらない！！頭だけになってしまった生きた上って来たのである。サメだ！逃げ回っている間にサメに喰われてしまったらしい。水面下の弱肉強食の世界を見せつけられたようだ。この辺りはジョーズのようなどう猛なサメがウヨウヨしているという話。その後磯見氏の竿にも3kg級の木がつをが来た。続いて最後に私の竿にもはつきりとかがつをを分けるあたりが来た。力の強いかがつをの事、いざ助けんと、皆私の周りで構えている。注目の中を釣り上げたかがつをは中型でまあまあ。取材氏大喜びで写真撮影。珍しい木がつをと女性釣り師の取合わせに満足気である。又、全速力で船は須崎港へと向う今日の釣りはベテランの方々もかなり楽しめた様子。船長、取材氏、釣果を見せ合い、比ばり数えたりしている釣り師達。ただ1人きびしい表情の宮本氏。3度にわたる大たちまわりに呆然とし、今日一日嵐の様に荒れ狂った彼の愛竿であった。しかし驚くべきはその間にもしっかり20数匹のイサキを釣り上げていた事だった。次は、9月又ここに来る。彼は、全速力で帰る船の中、無情な海とサメへの復讐を、心に誓ったに違いない。